

犠牲者を悼み、あの日を忘れない 御蔵山に慰霊碑を建立

3月11日、八幡町の御蔵山復興祈念公園に「東日本大震災津波犠牲者慰霊碑」が建立されました。これは、東日本大震災の犠牲者を悼むとともに、あの日記憶・教訓を忘れないために町が建てたものです。また、同日町中央公民館大ホールで行われた「東日本大震災大津波山田町犠牲者八周年追悼式」には、遺族や来賓、一般参列者など約400人が献花に訪れ、犠牲者を追悼。佐藤町長は式辞で「山田町の皆さまが安心して暮らせる町になるよう、一日も早い復興の完遂へ全身全霊をかける」と、誓いました。



御蔵山でラッパが鳴り響く 消防殉職団員慰霊之碑除幕

3月10日、八幡町の御蔵山復興祈念公園で、東日本大震災などで犠牲となった消防団員を慰める「消防殉職団員慰霊之碑」の除幕式が行われました。慰霊碑は消防団が建立。式では、佐藤町長、内館秋雄^{あきお}団長が除幕。ラッパが鳴り響く中、出席した消防団員ら約50人が黙とうし殉職者に敬意を表しました。内館団長は「震災では消防団員は我が身を顧みず住民の生命と安全を守り抜こうとしました」と哀悼。佐藤町長は「勇気ある行動を慰霊之碑に刻み、将来に継承していきたい」と力を込めました。



インターナショナルナイト 各国との文化交流図られる

3月22日、町中央コミュニティセンターで「インターナショナルナイト」が行われました。これは、町と岩手県国際交流協会が主催した国際交流イベントで、県内に住む外国人が本町を訪れ、参加者約100人と交流を図りました。各国の踊りや歌、民族衣装などのファッションショーで盛り上がったこのイベント。会場には、オランダやロシアなど10カ国の特産品が展示されたブースのほか、お菓子や料理が並び、参加者はさまざまな国の人とコミュニケーションを図りながら、異文化に触れていました。



町民の集いで入江優子^{ゆうこ}さん講演 地域に根付いた教育考える

2月24日、町中央公民館大ホールで「人づくり町づくり 町民の集い」の特別講演会が行われました。今年の講師は東京学芸大学で社会教育の立場から経済的に困難な家庭状況にある児童生徒へのパッケージ型支援をしている入江優子さん。「教育がつなぐ地域の未来」と題して、これまでの教育が歩んできた歴史を踏まえながら、昔と現在の教育の違いを例に挙げ講演。最後には、学校統廃合の痛みを超えて、地域の産業や歴史、文化、自然といった地域に根付いた教育が必要なことを伝えました。



町のわたい

今月の題字 堀合 柗摩君 (山田南小6年)



三陸鉄道リアス線開通イベント 開通祝い、列車を歓迎

3月23日に三陸鉄道リアス線が開通しました。23日と24日には、開通に合わせたイベントが陸中山田駅前で行われ、訪れた人は、著名人や町内の団体によるステージイベント、陸中山田駅周辺をめぐるスタンプラリーなど、さまざまな催しを楽しんでいました。列車の運行を一目見ようと、多くの人が集まった陸中山田駅構内。飾られた大漁旗や「祝！三陸鉄道リアス線誕生」と書かれた手持ちの旗を振る人々が列車を出迎えました。23日は、町内各駅でも町民が旗を振って歓迎。8年越しの列車の運行を感慨深く見届け、喜びを分かち合っていました。



5人が学び舎を巣立ち 轟木小学校で卒業式

旅立ち、新たな生活への希望に満ち溢れる3月。町内各地で卒園式、卒業式が行われました。3月20日には、轟木小学校（八重樫浩二校長）で平成30年度卒業式が行われ、5人（男4人、女1人）が晴れの巣立ち。八重樫校長から一人ひとり卒業証書をしっかりと受け取りました。卒業生は、6年間の思い出と感謝の気持ちを家族や在校生、先生に伝え涙。また、慣れ親しんだ校舎との別れを惜しみながらも、これからの中学校生活に期待を膨らませていました。今年の町内小学校の卒業生は全体で97人（男60人、女97人）でした。

